

報道資料(プレスリリース)

メリアル・ジャパン株式会社  
平成 26 年 6 月 12 日

## 「メリアルグローバル養鶏フォーラム」の開催

2014 年 4 月 23 日から 25 日にかけて、フランスのパリにて、メリアル社主催「第 3 回メリアル養鶏フォーラム」が開催され、世界の養鶏ビジネスや家禽の健康について OIE や WHO などの国際機関の専門家、業界有識者が講演を行い、68 カ国から総勢約 500 名の参加者が意見交換を行いました。

フォーラムのトピックスとして、家禽類の病原体や疾病を予防およびコントロールするために、生産者・政府機関・獣医師および業界関係者がこれまで以上に多くの専門分野にわたり協調し、協力する必要性が出てくるとの共通認識を参加者一同にて共有しました。

また 2050 年までに、世界の人口を賄うのに必要な食糧は現在よりも約 70%増加する見込みです。世界の動物性タンパク質の需要において、鶏肉量は 2020 年までに豚肉量を上回り、養鶏産業は将来の食糧確保において更に重要な役割を果たすようになります。メリアル社は、鶏の孵化から育成に至るまでの高度な防疫ワクチンプログラム、高品質の獣医療の提供、新製品・革新的機器やサービスの導入、および免疫の向上や新しい疾病のコントロール等の各視点から、世界の養鶏に一層貢献する必要性を認識している旨を表明しました。

メリアル社のアビアンリサーチプログラムリーダーであるミッシェル・ブプロット氏は、「感染症をコントロールする最も有効な方法は、現場に合ったワクチン接種プログラム、バイオセキュリティ(防疫措置)、モニタリングとサーベイランスなどで家禽群への病気の進入を防ぐことです。より良い感染症のコントロールと農場の生産性向上には、継続的な教育と意見交換が不可欠です。」と講演しました。特記すべき内容として、伝染性気管支炎やニューカッスル病、そして免疫抑制の強い疾病の一つである伝染性ファブリキウス嚢病をコントロールする方法、また家禽の免疫体系の強化と免疫抑制の低減に役立つワクチンやテクノロジーの役割を定義しました。また、鳥インフルエンザ(AI)も依然として公衆衛生上の大きな懸念事項となっており、AI に対する決定的な防御対策はまだ存在していませんが、AI 汚染国と AI 非汚染国の間で問題点を共有することは、世界レベルでの AI のコントロールに有効なワクチン接種プログラムを構築出来ると提案されました。又当フォーラムには、養鶏産業の世界トップ 10 のリーディングカンパニーによるラウンドテーブルミーティングも用意され、鶏の健康を保つためのハイレベルの管理ならびに生産コストをいかにコントロールするかがこれからの大きな課題であると共通の認識を得ました。

メリアル社は、同社が今後とも家禽生産の成長を支援するためにワクチンおよびテクノロジーの事業開発に継続的に投資することをフォーラムの最後に強調しました。

## メリアルについて

メリアルは多くの動物の健康と福祉および生産性の向上のため様々な製品を提供している、研究・開発主導型の動物用医薬品分野における世界のリーダー企業です。世界中でおよそ 6,200 名のスタッフが従事し、その製品は 150 カ国以上で販売され、2013 年の年間販売高はおよそ 20 億ユーロでした。

メリアルはサノフィ・グループの一員です。

メリアルの Web サイト : <http://merial.com/>

メリアル・ジャパンの Web サイト : <http://merial.jp/>

## 編集者への注記

イベントプレゼンテーションを含む「the3rd Global Avian Forum(第 3 回グローバル鳥類フォーラム)」に関する詳しい情報(英文)についてはこちらをご覧ください。

<http://avianforum.merial.com>